《第111回》令和四年九月の作品

〈九月九日（金）通信句会〉

桑の実がおやつ代わりでありし日よ　（清助）

美ヶ原より

秋の日や雲の彼方に烏帽子岳　（芙紗）

ふるさとへ向かふ峠や吾亦紅　（一江）

店頭に百果の盛れる豊の秋　（正佳）

警策の音の響きや二日月　（前歩）

山裾のかすかに見えて霧の朝　（隆治）

揺り椅子に身を委ねをり涼新た　（孝昭）

行く秋や「吾亦紅」など歌ひをり　（貴美）

悼　羽田啓吾

読経に忍び込みたる法師蝉　（奉男）

鈴掛の枯葉散りしく遊歩道　（平六）

霧ヶ峰見渡す限り松虫草　（正雄）